

静岡市剣道連盟広報だより

創刊号

発行所 静岡市剣道連盟
事務局 静岡市駿河区
下川原6-2-20
Tel 054-256-4433

発刊のことば

静岡市剣道連盟

会長 佐藤 淳



静岡市剣道連盟
盟広報誌創刊号
の発刊にあたり
会員の皆様と共に

にお慶び申し上げます。

旧静岡市剣道連盟と旧清水市剣道連盟が平成十七年四月に合併し新しく発足いたしました。そして早いもので第一年度の事業は計画通りほぼ達成できる運びとなりました。特に収入支出につきましては初年度ということで不安の中で経過をしてまいりましたが無事決算の運びとなる見通しとなり会員の皆さんには年度末に良き報告ができるものと考えています。県剣道連盟を始め関係諸団体の皆さんからのご指導に対し心から厚くお礼申し上げますと共に、今後共変らぬご支援を願うものです。

最近の剣道をとり巻く情勢でよく話題になることは少子化による剣道人口の減少である。かつて爆発的に

増加した時代は二度と望むことは無理と思われる。しかし現在市民大会、昇段審査等の参加者数を見るに総体的にはあまり減少していないことがわかる。それは大和撫子の進出である。剣道はすでに大和男子の特技では無いのが現実である。私は昭和十八年旧制中学入学の戦争まっ盛りの学生で私の学校では剣道・柔道は正課目であった。女子校にはまったく剣道・柔道は無いのが普通であった。から剣道は男子だけのものであった。

最近中学校、高校をみると剣道部はすでに女子の進出が著しくすでに男子の特技ではなくなった様である。居合道・杖道も含め女性への剣道の勧誘は十年十五年後の剣道人口につながるものと期待するところだ。現に最近二十年程前に剣道をすめ指導した女性と県下の青少年大会で会いました。中学生と小学生の子供が試合に出場するのでその応援にきたとのことで私も久しぶりの対面でした。母親が学んだ剣道は少なからずその子に継承されること間違いありません。

私の剣道は専門家ではありませんし

指導する程の技量も持っておりませんが最近子供達の指導をしながら自分が指導を受けている様な心境になるのは何故でしょうか。今日迄先輩の方々が引継いできた剣道を後世に正しく伝承していくにはまだまだ自身の勉強の不足を痛感しています。

広報誌発刊にあたりご協力をいただいた諸先輩の先生方始め多くの皆さんからのご協力に心から感謝申し上げます。

名実共の発展を

静岡県剣道連盟会長

飯塚才司



静岡市剣道連盟
盟広報誌の創刊
を心からお祝い
申し上げます。

旧静岡市と清水市の合併により誕生した政令指定都市静岡市の新しい静岡市剣道連盟が、名実共に静岡県剣道連盟を代表する中央地区連として存在感を示し、県剣連の牽引者となって欲しい事は会員皆が願う所です。しかし七十万都市という広大な面積ゆえに抱える諸問題も多しということも事実であり、方向性を一つに纏めて牽引することは至難であるともいえます。

旧静岡市の頃であっても県剣連道

場「養浩館」があるとはいえ、なかなか市剣連剣士が一堂に会するという稽古会が育たなかったという悩みを抱えていたわけですから、清水地区との合併で一つに纏まり連帯意識を高揚することが一層難しくなるのではと危惧する面もあります。このような状況の中で、この広報誌の果たす役割は非常に重要であり期待することも多いとおもいます。

ところで最近静岡市内の高校OB会九校による稽古会及び試合が行われているようで、参加者も年々増えているとのことで大変結構な事だと思えます。連盟でなくこのようなOB会の働きかけが、意外に卒業後剣道から離れていた人たちを引き戻すきっかけになり、昔の仲間との出会いを楽しみ気楽に参加できるのではと感じました。各校のOBどうしがバラバラでなく一つに纏まったことから大きな流れとなり潜在していた力を引き出すことに繋がっていく良い事例であるとおもいます。

小グループの稽古場所は数多くあっても横の繋がりがなく皆バラバラでは連帯感も湧かず、切磋琢磨による発展は望めないでしょう。この広報誌から個人あるいは団体同士の理解交流がはじまり、市剣連の一体感が醸成され名実共に発展されていく事を大いに期待したいと思えます。

この広報誌に多くの期待と夢を託し発刊のお祝いの言葉といたします。

静岡市剣道連盟

広報発刊に寄せて

剣・居両道範士

羽賀忠利



新年明けましておめでとうございます。

本県中核都市の連盟として、種々に期する所も多く、決意も新にして新年を迎えられたことと思います。

昨年は世界中で色々な大災害に加えて、恐ろしい事件も起りましたが、本年も亦各方面に亘って、嫌な事象が続発しております。国内も異常気象による八十八年振りとかの豪雪に加えて予期せぬ事象が発生して、此の原稿を書いている間にもライブドアの問題で日本市場は大混乱を呈して、前代未聞の大激震が兎町に発生とマスコミ大騒ぎが発生する等と、寸時も油断ならない社会環境となりました。此の様な時に当り剣友各位には一層心を引き締め健康に留意されて、ご精武ご活躍を願う次第です。

さて、旧藤佐藤淳会長のご来訪を

受けて静岡市剣連が県内他連盟に先駆けて広報を発行することを決定した。就いては、県剣連の長老で層て静岡市に居住していた因縁からは非一文を投稿して欲しい旨の申し出がありました。高齢ではあるが、連盟発足当時の事状を知る人も希となつたので、当時の状況等を書かせてもらいましょうとお引き受けした次第です。

最初に県剣連広報に係る面白い思い出があるので此を書いて突破口としたいと思います。県剣連広報は、私が県連理事長に在りました昭和四十七年六月に発刊しました。私が発議した関係から責任者として携わることになりました。当時三島の住人で読売新聞記者の経歴の持ち主で剣道が好きな中川龍男と云う人が在って、私と仲良しであったので彼が種々アドバイスしてくれて大変助かったものでした。諸準備整って愈々発刊という時に表紙をどうするかで議論の末に、広報の益々の発展を期して、若々しい絵をという事で決めたのが次の二人です。将来の本県剣道界のリーダーとする人という事で、片や東レ三島剣道部主将の飯塚才司君に対するは県警機動隊剣道主将の滝川貞司君と決定して、丁度藤枝市立体育館で開催中であつた県下大会時に、両者の立会いという形を作り、

当時最高リーダーであつた静岡の中村昇一氏と大橋専一氏を配しての絵となつたのである。果たせるかな片や範士八段、片や八段教士として、現在の県剣道連盟の立役者として活躍してくれております。正に正夢であつたと喜んでゐる次第です。

ところで、本論に入る前に市剣道連盟発足当時の指導的立場にあつた先生方を知ることが大切だと思ひますので、述べて見ることにしたいと思います。

先づ最初に挙げる先生は、大長九郎という岡山県出身で力信流という古武道宗家で明治三十三年に柔剣道指導者として静岡県警察部に入り、勇名を裏かせたが後年膝を痛めて剣道に転向し、昭和四年の天覧試合に指定選手として出場した。昭和三十二年の静岡国体には八十才を越えて尚かくしゃくとして力信流棒術の形を打たれたが、昭和三十九年に九十才を以て昇天された。

次は杉山和民先生で小柄であつたが間合が明らかで体捌きの見事な京都武徳会で修行された方で、終戦までは旧制静岡高等学校教授をされてゐた。先生には面白い癖があつた。人の所持品で自分の好みに合う品を発見すると自分の物にするまで手を離さぬ人で私も二、三回経験したことがあつた面白い人で、私も何回

か稽古を頂戴した。

次は岡文雄先生で、岡山出身の方で京都武道専門学校卒業で静岡中学校(現静岡高)に奉職され、三番町に盈進幼稚園を設け併せて道場も経営されていた。先生は攻めと応じ技に勝れた方で又酒豪を以て鳴らされた私も可愛がって戴いた先生であつたが、昭和三十七年四月一日に道場が戦災で焼失したのを復興されて、復興十周年記念式典の時、日本剣道形の精神の大切さを力説中に脳溢血で死亡された。その式典を終えご遺体を移した後に中村昇一先輩と私とで打った剣道形は悲壮感に満ちたもので今尚身の締まる思いがするものである。

次の先生は内山廣吉先生で、先生は静岡市出身で東京の中山博道範士の道場有信館で修行されて静岡県警察部と静岡商業の指導に任じられていたが晩年病を得て剣道から遠ざかり戦後の指導が出来なかつたのは残念であつた。然し多くの教え子を擁うして威盛のあつた人であつた。次の先生は小倉孝一という先生で、徳川幕府旗本の流れを汲む人で緑町に春風館道場を構えて、戦時中は各学校の指導に当られた方で、戦後剣道復活間もない頃は静岡市在住の指導者が道場を借りて稽古したものであつた。

次が山田康雄先生で東京神田の高野佐三郎範士の道場修道学院で鍛えられた方で小柄であったが、剣尖の鋭い崩れない先生で若い元気な人がかかって行つては突き揚げられて悲鳴を挙げたものであった。昭和三十一年代に県剣連の副会長、審議員長を歴任された。先生は行政書士の傍、県護国神社奉賛会の役員をされて秋の慰霊祭の日には、市内の商店から色々な小物の寄附を集めて来て剣道の野試合を開催された大切な方であった。

以上の先生方が静岡の剣道を育て、下さった方々であったが敗戦により占領軍の厳しい禁止令にて、剣道は放逐の憂き目を見るに至り官公庁、学校からは禁止され、僅に工場の中等で細々と愛好者によって稽古が続けられる有様であった。

静岡市内でも若い愛好者が、田中太次郎商店の製茶工場内の一角で稽古を続けていたり、又、常盤町の合気道々場光輪洞でも愛好者により継続されていた。それらの中で異彩を放ったのが川村三兄弟であった。長兄の平蔵氏は東京大倉高商出身、二男忠雄氏は早稲田大学商学部出身、末弟三郎氏は慶應大学卒で二刀の使い手で三兄弟の勇名は近県に鳴り響く有様であった。剣道活動が禁ぜられても尚剣道に熱意を持つ人々は全

国大会に多勢居て、その中で剣道らしきものとして登場したのが、愛知県に発祥した「シナイ競技」というものであって、全国的組織に進み後には全国大会の開催までに発展した。然し剣道に対する愛着心は盛んで、日米講和条約締結成るや昭和二十七年には全日本剣道連盟の発足となり天下晴れて剣道活動が開始された。多くの剣道愛好者達は水を得た魚の如く喜んだのである。

静岡県に於ても昭和二十七年七月に県剣道連盟創立総会を開催し、田中太次郎氏を会長として発足した。そして第一回剣道大会を静岡公会堂（現静岡市役所跡）四階のコンクリート床で開催し、三段以下と四段以上に二分し、三人一チームで盛会であった、四段以上の部での優勝は川村兄弟チームであった。その当時、静岡市も連盟を結成し、会長に異色の人があった東京海上火災支店長の伊東祐蔵氏であった。氏は早稲田大学出身にして、大学入学時は段外二級であったが、血の滲じむ精進にて主将を勤めた努力家であった。当時稽古場として選んだのが春風館で常連は伊東会長を筆頭に静岡工業の平川竜雄教士、大橋専一（両者は東京高師出身）に中村昇一（城中教師で国士館出身）、小山長太郎（正春武道具店主）に川村忠雄に私羽賀を入れた

七人が主力であったが春風館道場の活動を妨げるを避けて静岡中央警察署道場を開放してもらって大体的に活動を開始して少年指導にも着手したのであった。

次いで昭和三十年・三十一年と二年連続してオール早稲田剣道OBと静岡県剣道陣との対抗戦を計画して、会場は前記静岡公会堂一階のステージとし、入場券を発行して両軍総勢三十名宛とし、早稲田チームは往年の大将、副将クラスの名剣士揃いで、満員の盛況であった。その大会に更に花を添えて戴いたのは、東京から齊村五郎・持田盛二両範士に加えて京都から小川金之助範士に加うるに、薙刀道範士の三田村千代先生に徳永教士の来場という豪華な来賓に皆感激して一目拝顔をと超満員の盛況であった。斯くして剣道復興の気運のあがった時、昭和三十三年の静岡国体優勝のオレンジ旋風へと意気揚がり、隆盛へ向った。そして昭和三十四年八月の駿府会館に於ける全国剣道講習会並に六段審査へと進んだのである。此の審査会では県内合格者は三十四名という大量の合格者を出して大盛功であったが時移り星は変わる世の中にして、現存の方は僅に十名という淋しさで人生の果敢さをつくづく感ずる次第です。

ハイ静岡大会へと進んで行ったのである。

以上戦後静岡剣道の歩みのあらましを記して会員諸君の参考に供して、今後のご精進発展の資とされ、幸として筆を擱くことにします。 終り。

静岡市の杖道について

市体育館居合道・杖道教室
指導員会副委員長

興津靖彦

昭和三十一年に杖道が全日本剣道連盟に加入し、昭和四十三年に同連盟が杖道の基本・形それぞれ十二本を制定し、普及のための講習会を開催した。それから杖道が全国各地に広がるようになった。それまでは福岡などを中心として古流が少数の愛好者によって受け継がれてきていただけだった。

静岡市でも全剣連の杖道を稽古する人たちが生まれ、昭和四十七年に中央体育館での居合道・杖道教室が開かれると、福地一男氏を中心に杖道の普及が始まった。長田体育館居合道・杖道教室や北部体育館の杖道教室も加わって少しずつ杖道を稽古する人たちが増加した。



現在上記の三教室の受講生は三十一名(平成十七年十二月現在・内女性四名)である。受講生では五十(六十歳代の中高年齢者が一番多い。今まで特別な運動をしたことがなく、これから何か身体を動かして健康維持に役立てたいという動機の人が多い。その点で杖道は身体の左右を同じように使うし、打つ・払う・突く・ひねるなどの動作や、手指の使い方が健康維持によいかもされない。また、現在マスコミで話題の古武道家、甲野善紀氏の主張(武道は心身の機能の向上には最適である)に影響され市の杖道教室を受講したという人も何人かいる。

全剣連の制定杖道以外の古流では神道夢想流が葵区の春風館道場に於いて静杖会の鈴木康介氏を中心に稽古が行われ、水鷗流の杖は清水区の碧雲館道場で勝瀬宗家によって稽古が続いている。



静岡市剣道連盟組織

今回は、役職とお名前を紹介させていただきます。今後、どんな仕事をしているのか紹介していきたいと思っています。

〈静岡市剣道連盟役員〉

会長	佐藤 淳
副会長	小田 克夫 滝川 貞司
理事	佐藤 武彦 阿部 誠
副理事長	千原 圈一
常任理事	松本 勝夫 安永 宗司
	長谷川直樹 古谷 宇明
	望月 茂彦 久野 道雄
	牧田 信久 戸坂 義孝
常任理事	渡辺 晴久
常任理事	桂山 洋一
理事	降矢 章成 越田 浩子
	高田 松彦 鈴木 靖
	鳥巢 誠一 田中 久夫
	石川 廣美 大村 三仁
	大儀見 薫 葛西 敏雄
	高橋 明功 綱崎 忠義
	西澤 康隆 望月 郁夫
	望月 信一郎 諸星 幸夫
	山崎 忠雄 葛西 英男
理事	小澤 一彦
事務局員	金田紳一郎 望月 美吉
会計長	小川五十雄

会計員 塚本 浩之
顧問 天野 一 宮本 海

熊澤 正雄 金子 一郎
野々瀬良夫 塩崎 潮児
松前 廣 青木昭之助
岩佐 重夫 福地 一男
福島 平八 梅田満貴男
土橋 満林 学
村谷 文治 井出 栄
長岡 弘司 丸山 成穂
吉田 芳徳

〈静岡市剣道連盟委員会〉

次に、各委員会活動と簡単な仕事内容、メンバーのお名前を紹介いたします。こちらについても、今後詳しく紹介していきたいと思っています。

◎技術・指導委員会

委員長 松下 勝夫
副委員長 戸坂 義孝
委員 大儀見 薫 佐藤 春光
深田 康則 吉留 秀俊
曾根 正夫 村谷 武吉
熊谷 一郎 土屋 昌代
赤松 靖晃 原田 伸雄
諸星 幸夫 弥次金 守

仕事内容…審査受審者(主に小・中学生)を対象とした技術指導、審判員勉強会の開催など。

◎審判員選考委員会

委員長 望月 茂彦
副委員長 高橋 明功

委員 海野 千秋 寺坂 城治
海野 靖章

仕事内容…大会審判の選考、委嘱などの事務手続き、試合会場の割り振りなど。

◎審査事務委員会

委員長 石川 廣美
副委員長 桂山 洋一
委員 熊谷 一郎 中野 重利
望月 郁夫 望月 重宏
若杉 武夫

仕事内容…年三回の定例一級審査会の運営など。

◎大会開催準備委員会

委員長 牧田 信久
副委員長 渡辺 晴久
委員 田中 久夫 増田 達弘
吉川 勇 橋本 文二
新 昇 原田 繁雄
杉山 和志 海野 靖章
大橋 雅之 鈴木 通昭
海野 千秋 宮本 敏行
牧野 忠夫 井水 博史
片山 正徳 窪田 光洋
鈴木 俊司 高橋 明功
塚口 雄司 西澤 康隆
望月 彰 望月 信一郎
吉田 行宏 若林 稔

仕事内容…組み合わせ、仕事分担、大会準備、試合進行状況の把握など。

◎広報委員会

委員長 鈴木 靖
委員 高橋 長吉 小林 光男
葛西 敏雄 網崎 忠義

仕事内容：市剣連事業内容などのPR活動、大会取材、広報誌の発行など

高体連だより

★県総合体育大会中部地区予選会

(平成十七年五月十四、十五日)

・於 藤枝明誠校

男子優勝 東海大翔洋高

二位 静岡東高 五位 常葉学園

橋高 七位 静岡市立高

女子優勝 常葉学園橋高

二位 静岡東高 三位 静岡市立

高 七位 静岡西高

同個人戦男子

優勝 浦田直也(翔洋) 二位

山田雅基(静東) 三位 安永宗史

(静市) 六位 河村幸弘(静市)

同個人戦女子

優勝 藤田洋子(静東) 二位 足

立久美子(静岡) 三位 市川賀苗

(常橋) 四位 福島綾子(静市)

五位 天野聡美(静市) 六位

徳田知春(常橋)

★県高等学校総合体育大会

(平成十七年六月四、五日)

・於 静岡県武道館

女子団体 二位 常葉学園橋高

同個人戦男子

優勝 浦田直也(翔洋)

同個人戦女子

六位 池谷咲子(静東)

七位 天野聡美(静市)

八位 徳田知春(常橋)

★県高等学校新人大会中部地区大会

(平成十七年十一月五、六日)

・於 東海大翔洋校

男子優勝 静岡市立高 二位 常葉

学園橋高

女子優勝 静岡東高 二位 静岡

市立高 三位 常葉学園橋高

同個人戦男子

優勝 細澤 亮(常橋) 二位

安富匡善(常橋) 三位 河村幸

弘(静市) 四位 稲葉大起(常

橋)

同個人戦女子

優勝 西ヶ谷沙織(静東) 二位

森 真琴(常橋) 三位 加藤

美美世(静市) 六位 岡村幸奈

(常橋)

中体連だより

県大会制覇、全国大会出場、おめでとう長田西中学校、十三年ぶりの快挙、平成四年の大里中学校に続いて。

「絆」

長田西中学校剣道部主将

勝山巴奈子

暑い日も寒い日も稽古に明け暮れた毎日。辛く、厳しい稽古に辞めたいと誰もが思った三年間。泣きながら稽古をしたこともあった。そんな姿を見て、背中を押してくれた仲間がいた。くじけそうになっても声を掛け合い、たくさん円陣を組んだ。最後まであきらめずに五人で勝利をつかみ取る。それが三年間共に苦しみ、共に笑い、共に涙した私たちの姿だった。

個人のプライドよりもチームの一勝を大切に「一戦必勝」で臨んだ中体連。気づいたら決勝の舞台に立っていた。一進一退の攻防の末、勝ち取った県大会制覇、そして全国大会出場。自然に涙があふれてきた。苦しいことの方が多かった三年間だが、全国大会という大舞台に立つことができ、そして何よりも仲間との「絆」という大きな宝を得ることができた。



ここまでこれたのも熱心に指導してくださった熊谷先生・原田先生、そして先輩や後輩、保護者をはじめ支えてくださったみなさまに心より感謝したい。

平成十七年度大会結果

★静岡市剣道連盟・清水剣道連盟合併記念剣道大会

(五月一日・北部体育館)

〈小学〉①いづみ道場②静岡武修館

③三保剣道④高部剣道スポーツ

〈中学〉▽男子①清水②豊田③籠

上③東▽女子①南②美和③長田西③

高松

★近県青少年剣道大会

(八月七日・北部体育館)

〈近県青少年〉①武修館B(三島)

②富士松剣友会(刈谷) ③静岡市清水③沼津市剣道連盟

〈小学〉①富士松剣友会(刈谷)

②誠道会中央道場(浜松) ③剣修館

(浜松) ③尚道館(磐田)

★葵会中学生剣道大会(県内中学生)

(九月十九日・北部体育館)

〈男子〉①高台②服織③三ヶ日

③榛原

〈女子〉①高台②三ヶ日③沼津五

③高松

★静岡市民剣道大会(葵区・駿河区)

(十月十日・北部体育館)

〈小学〉▽4年①大野周平(武修館)

②本川混一(同) ③森俊貴(同) ③

竹田悠馬(いづみ)▽5年①山下真

実(安東剣教) ②高倉周(武修館)

③滝口航己(同) ③田中直樹(同)

▽6年①杉山諒次(剣志会) ②大石

修一(いづみ) ③井上真理菜(鍊心

館) ③西ヶ谷葉月(富剣会)

〈中学男子〉▽1年①加賀田親幸

(観山) ②牧野史椰(服織) ③村松

卓馬(聖光学院) ③阿部祐人(安東)

▽2年①鈴木天志(服織) ②杉山敬

太(籠上) ③中村彰太(服織) ③浅

野洋武(安東)▽3年①柳井瞭太

(安東) ②山田晃平(高松) ③廣幡

圭亮(長田西) ③松木志光(附属)

〈中学女子〉▽1年①長嶋良子(末

広) ②川崎旭穂(美和) ③安森恵梨

菜(同) ③伴野志帆(東)▽2年①

石田智子(末広) ②池田末里(同)

③塩澤優磨(籠上) ③鈴木彩美(大

里)▽3年①金原末典(長田西) ②

勝山巴奈子(同) ③瀧澤実咲(安東)

③今泉友里(同)

〈高校〉▽男子①大石弘志(静工)

②望月龍之介(静商) ③杉山僚(大

剣会) ③小林勇太(静工)▽女子①

増田唯(芙蓉) ②大崎悠里(静高)

③徳田知春(橘高) ③寺本典子(芙蓉)

〈大学・一般〉▽男子①原口智康

(常葉大) ②塩澤昌史(同) ③山崎裕

文(同) ③橋本拓也(同)▽女子①

佐野有美(常葉大) ②山田真理(同)

③上原幸子(長田体育館) ③橋本真

弓(常葉大)

★清水区民剣道大会

(十一月三日・清水総合体育館)

〈小学〉▽1年①池ヶ谷和杜(小島

剣) ②堀池秀太郎(同) ③小針嘉幸

(同)▽2年①石垣あゆみ(興津剣)

②花田駿介(同) ③鍋田稜馬(清心

館宮本) ③鋸持夏奈穂(新運館)

▽3年①高橋和麻(興津剣) ②山崎

公暉(同) ③前澤快知(小島剣) ③

松原伸太郎(高部剣スポ少)▽4年

①増田昂平(浜田剣道教) ②杉山寛

治(興津剣) ③花田峻太(同) ③山

本拓(小島剣)▽5年①石垣成都

(高部剣スポ少) ②高橋義季(興津

剣) ③石垣友也(清心館宮本) ③望

月元稀(剣心会)▽6年①鈴木文哉

(高部剣スポ少) ②池ヶ谷優雅(小島剣) ③北條賢太(同) ③池田一馬(清心館宮本)

〈中学〉▽男子①藤井貴弘(東海大

附翔洋) ②吉原僚一(同) ③高橋佑

斗(清水二) ③清野雄起(同)▽女

子①望月佑希子(剣心会) ②杉山末

倅(小島剣) ③稲葉澄香(同) ③有

泉花子(清水七)

〈高校〉▽男子①高橋一彰(剣心会)

②山本昌徳(清水工) ③大石恵一

(清水東) ③伴野貴啓(清水工)

▽女子①石垣慶子(清武館山口) ②

岡野美緒(同) ③戸塚綾乃(同) ③

赤堀陽子(清水東)

〈一般〉▽二段以下①矢野一孝(清

水工OB) ②青島正尚(清水東) ③

大村涉(三保剣ク)▽三段以上五段

以下①遠藤巧(小島剣) ②森川和晃

(東海大附翔洋中) ③世戸昭宏(剣

心会) ③斎藤真一(清心館宮本)

★清庵地区中学生新人剣道大会

(十一月二十三日・清水二中体育館)

〈団体〉▽男子①清水二②富士川二

③清水六③東海大附翔洋▽女子①清

水六②清水一③清水七③清水小島

〈個人〉▽男子①藤井貴弘(東海大

附翔洋) ②吉原僚一(同) ③宮田航

(清水八) ③大村諭(清水六)▽女

子①杉山末倅(清水小島) ②稲葉澄

香(同) ③鈴木理沙(清水二) ③中

野愛海(富士川一)

タイトル募集

平成十七年度静岡・清水の合併を期に、静岡市剣道連盟も新たなスタートを切りました。そこで、この広報誌のタイトルを募集いたしますので、奮って応募下さい。

要 項 タイトルは一人ひとつ

として、葉書に楷書で

ご記入ください。

応募資格 老若男女を問わず、ど

なたでも。

応募期間 平成十八年四月一日～

七月三十一日

送り先 〒421-0113

静岡市駿河区下川原

612-201405

静岡市剣道連盟

小澤 一彦 宛

採用された方には、次

号に掲載し、記念品を

贈呈致します。

編集後記

市剣道広報誌の発行に当たり、原稿・情報等をお寄せ頂き誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

どのような内容にするかといろいろと模索、協議致しましたが、今後、皆様からの声を積極的に取り入れ、よりよい誌面作りをしていきたいと考えています。今後もご指導、ご協力をお願い致します。

広報委員会